



浅井啜古戦場



県指定史跡 浅井啜古戦場

合戦地：石川県小松市（木場潟の北一帯）
 対戦者：前田利長（東軍） vs. 丹羽長重（西軍）
 軍 勢：前田軍 約25000（内先発隊 約5000）
 丹羽軍 約3000
 開始年：慶長5（1600）年8月

「浅井啜の合戦」は、関ヶ原合戦の前哨戦として東軍に味方する金沢城主前田利長と西軍に味方する大聖寺城主山口宗永が対戦した大聖寺合戦から、利長が金沢に帰城する途中で西軍に味方する小松城主丹羽長重の急襲を受けた戦いである。

慶長5年（1600）8月3日、前田利長は大聖寺城を陥落する（大聖寺合戦）。その勢いのまま5日に北越前に進出し、北ノ庄城主青木秀以、丸岡城主青木忠元を降伏させ大聖寺城に戻った。

金沢に帰城することを決めた7日夜半、先発隊の山崎長徳、長連龍、長好連、奥山栄明、太田長知、富田直吉、高山右近長房らが、小松城主丹羽長重を牽制するために木場潟西方の御幸塚城に入る。利長本隊も同日に大聖寺城を出て木場潟の東方を経て三堂山城に入った。翌8日早朝、先発隊は本隊に合流するため、山崎長徳、高山右近長房、奥山栄明、富田直吉、今枝民部、太田但馬の順に出陣、殿隊は長連龍であった。殿隊が大領野を出た辺りで長重の家臣江口三郎右衛門正吉の伏兵が急襲した。夜半の風雨がまだやまない悪天候の中では火縄銃が使えず、浅井啜の桑畑で激戦が繰り広げられた。長隊、丹羽軍ともに討死が相次いたが、長隊が本隊に合流しようかというところで他の先発隊や本隊から援軍が駆けつけ丹羽軍は撤退して合戦は終わった。



8月10日、三堂山に岡島一吉を残して利長は金沢に帰城した。10月17日徳川家康から利長の戦功を賞して、丹羽長重領の能美郡小松12万石、石川郡松任4万石、山口宗永領の江沼郡大聖寺7万石が与えられ、加越能三カ国120万石の契機となった。

県史跡に指定されている浅井啜古戦場には戦死した長連龍の家臣9人の供養塔が建てられている。

古戦場カードに関する最新情報・お問い合わせ
 北陸城郭プロジェクト（フリー・スタイル有限会社）
 〒929-0335 石川県河北郡津幡町井上の荘3-9
 TEL. 076-204-6046 FAX. 076-289-3943
 E-MAIL. contact@j-sampo.com
 ホームページ城郭さんぽ <https://www.j-sampo.com/>